



三中だより

中野区立第三中学校学校

第3号

平成28年6月17日発行

三中生 VS パラリンピアン義足ランナー

校長 齊藤 久

5月21日（土）快晴の青空の下、第70回運動会が開催されました。

午前の最後の種目はエキシビジョンレース（パラリンピアンと短距離走対決）を企画し実施いたしました。

招待した義足ランナーの金子順治選手は、現役選手としては引退していますが、義足ランナーとしては草分け的な存在です。普段、歩行で使用する義足と陸上競技で



使用する義足とは、機能面で大きな違いがあり、金子順治選手は、義足を研究している医療機関の大学の先生に協力して、義足の開発にもかかわってきました。

金子順治選手に挑戦した三中生は3名です。1年生の代表は、小学生の頃、アイスホッケーの東京都選抜選手に選ばれ、全国大会へ出場した男子生徒です。2年生の代表は、学校外の野球チームに所属しているスポーツが得意な男子生徒です。3年生の代表は昨年、駒沢陸上競技場で開催された中野区総体陸上の2年生女子100m決勝で2位に入賞したバスケットボール部の女子生徒です。3名の挑戦を受けた金子順治選手はレース前のインタビューで「とても緊張しています。」と語っていました。

義足というハンデがありながら、力強く、そして、素晴らしいランニングフォームで走り抜いた金子順治選手とそのパラリンピアンに堂々と挑戦した3名の三中生へ、エキシビジョンレース後には大きな拍手が贈られていました。

思い起こせば、47歳の3月末、修了式が終わった翌日、私の右脚が1本の棒ようになり、膝も足首も曲がらなくなり、さらに腰痛も発症し、病院へ駆け込んだことがありました。1週間、寝たきりの生活でしたが、4月になって学校へ通勤することになり、この駅のエレベーターは電車の何両目に乗ると歩くのが少なくても良い、この駅では、エスカレーターを使用するには何両目に乗ると良いなど、健康な生活を送っていた時には、気にはしていなかったバリアフリーについて考えるようになりました。階段では手すりにつかまっただの上り下り、歩行では、歩幅が狭く、一歩進んではまた一歩といったように通勤に時間がかかりました。突然の病気の発症でしたが、いつかは回復すると思い、入浴時には、膝や足首の可動範囲が広がるようにストレッチを行い、休日には歩く練習を繰り返しました。その効果が出てきたのは、秋になってからでした。やっと1km程度でしたがジョギングができるようになりました。走ることができるようになり、私は健康を保持増進するためにマラソンを趣味にすることに決め、それ以来、ゆっくりですが、走ることを続けることにしました。

あれから10年が過ぎました。今年も運動会で中学生と走ることができるまでに健康が回復したことに感謝しつつ、1500m走に出場し、男子生徒と一緒に走りました。

今後の主な予定

6月24日(金) 音楽鑑賞教室(2年)
6月29日(水) 修学旅行(～7月1日)

7月 5日(火) 校外学習(2年)
7月 7日(木) 学力調査(2年)
7月 9日(土) 学校公開③

運動会

今年度の運動会は、例年より2週間予定を早め5月21日に行うことになりました。全校での練習は2週間前からでしたが、梅雨に入る前であったので練習も順調に行うことができました。実行委員は連日遅くまで残り、次の練習内容や改善点を考えたりしていました。2週間という期間は、実はその日にち以上に準備を早くしなければならないものもあり、中でも、応援団はゴールデンウィークの連休で集まることができず、時間の少ない中でパフォーマンスやエールの内容を考えて作り上げ、さらに一般生徒に教えるという大変な作業を行っていました。そのかいあって、

両学団ともに、甲乙つけ難い素晴らしい応援パフォーマンスを見せてくれました。また、各クラスのパネルの作成も4月から行わなけれ



ばならない状況となっていたのですが、各クラスのパネル係が頑張り、力作が揃い運動会に華を添えていました。

競技でも各学年、最後まで全力を尽くし、競い合っていました。まさに、スローガンの「力戦奮闘」を実現するかのようでした。また、個々が頑張るだけでなく、仲間への励ましや協力も随所に見ることができました。生徒たちは、運動会を通して協力し、互いの健闘を讃え、最後まで全力を尽くしてくれました。最後になりましたが、今年も多くのPTA保護者の方々に手伝っていただき、ありがとうございました。第三中として最後の運動会、よろしくお祈いします。



保健体育科 高橋 信幸



生徒総会

生徒会担当 渡辺 達也

5月6日に生徒総会が行われ、平成28年度の生徒会本部役員会、各種委員会の年間活動方針が全校生徒に承認されました。壇上に立って年間活動方針、活動内容を説明する生徒会長、各種委員長の姿には、三中を自分達の手で、これまで以上に良い学校にしていきたいという気持ちや三中の代表として責任を持って皆を引っ張っていかうという気持ちが感じられ、これからの活躍が期待できるものでした。

三中の生徒総会では、全校生徒一人ひとりに挙手をしてもらい、承認を取っています。これは生徒一人ひとりに「自分たちの学校をよりよくしていく」生徒会活動へ自分も参加しているという意識を持ってもらい、自分達も生徒会の一員なのだという自覚を高めてもらいたいためです。

今回承認された年間活動方針に基づき、生徒会長、各種委員長を中心に全校生徒一人ひとりがこれからの生徒会活動に取り組み、これまでの伝統を受け継ぎながら昇華させ、三中をさらに発展させていくことを期待しています。



セーフティ教室

生活指導部 高橋 信幸



6月11日(土)、本校体育館においてセーフティ教室が行われました。今年度は、チェックフィールド株式会社というITの相談を企業から受ける会社から代表取締役の目代純平さんに来ていただき、近年、社会問題化してきているインターネットに関するトラブルについて講演をしてもらいました。生徒達には「ココが怖い！ネット社会の現状」～被害者にも加害者にもならない！賢い使い方～という演題で講演をしていただきました。始めに、現在世界中のインターネット上

で1日にやり取りされている情報量の紹介やこの情報量がこの数年間でとても増えてきていること、ネット上にある情報の信憑性や情報をネット上に載せることの怖さをネットの世界を都市や町に例えて具体的に話してくださいました。また、テレビなどのニュースでよく話題になる、ネット上に写真の投稿や書き込みによる「炎上」によって個人情報公開されてしまい、本人ばかりか家族の日常生活に支障をきたしてしまう例や実際に犯罪行為になる事例なども紹介してください、参加するには、社会的責任・ルール・マナーといったことを守らなければならないと教えていただきました。生徒達は、90分の講演を自分たちの身近な問題として真剣に聞いていました。講演後の教室での感想では、生徒たちはこれからのインターネットとの付き合い方について見直す良い機会になったと感想を書いていました。大変お忙しい中、講演していただいた目代さんには感謝の意を表すとともに、お越しいただいた保護者の皆様にも御礼申し上げます。このセーフティ教室を生徒たちが実生活に役立て、上手にインターネット社会と接することができるようになってくれることを期待しています。



セーフティー教室意見交換会

副校長 三保谷 浩貴

セーフティー教室終了後、本校芹澤文庫において、講師目代さんを中心に、保護者・中野警察スクールサポーター・本校の教員・学校長による意見交換会を行いました。目代さんからはより具体的な詳しい事例が紹介され、バランスのとれた SNS の使用方法の大切さを改めて強調されていました。保護者からも、「SNS の怖さの現実を知った」、「機械が悪さをするわけではない。人間同士のコミュニケーションが大切。」等多くの意見や感想を發表していただきました。SNS に潜む怖さや人ごとでないという危機感を参加者が共有し子どもに伝えていくこと、を共通理解して会を終えました。参加していただいた保護者の皆様、ありがとうございます。

オープンキャンパス

教務主任 鎌形 孝二

5月12日に今年度第一回目のオープンキャンパスが行われ、桃園第二小学校84名と白桜小学校50名の6年生児童が三中の授業や部活動を見学しました。小学生が興味関心を持って熱い視線を送る先には授業や部活動に励む三中生の姿があり、一生懸命に取り組む様子は中学生として立派なお手本となっていました。小学生には中学生が静寂の中で、集中して授業を受けている姿がとても印象的だったようです。

第二回目は9月20日に行われます。ぜひその時にも三中生の素晴らしい姿を小学生に見せてほしいと思います。



活躍

【中野区中学校ソフトテニス総合体育大会】

女子団体戦 中野区 3位

都大会出場

応援をお願いします！！

二十四節気 七十二候【暦と日本人】

太古より、暦とは自然と人々の暮らしを結びつけるものでした。人々は月の形で日付を知り、太陽の動きで時間や季節を知って、農耕や生活の目安にしました。

新月の日を毎月一日とし、そこから満ちて欠けるまでを一月としたのが、太陰暦。地球が太陽を一周する期間を一年とするのが、太陽暦。この二つの暦を組み合わせた太陽太陰暦が「旧暦」と呼ばれるものです。ところが、旧暦では一年で十日ほどのずれが生じました。これでは、農耕や漁を中心とする人々の暮らしに支障が出てしまいます。そこで、季節感を補うために考え出されたのが二十四節気です。

6月17日は芒種（ぼうしゅ）、梅子黄（うめのみきばむ）に当たります。梅雨入りをし、湿度も高くなるこの時期ですが、道々の紫陽花や傘をたたく雨音に情緒を感じることができます。この時期も季節を感じながら、過ごしたいものです。

参考文献 イラストで楽しむ日本の七十二候